**第5課　イエスキリストの生涯と公生涯2018.8.4**

◎ 賛美(一同) : 韓日113番、韓日133番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : マタイの福音書1章 21∼23節

◎ 本文朗読

◎ 主の祈り(一同) : 最後に

**◎ 今日のマナ**

人間の体を着てこの地に来られたイエス様は、幼年期と青年期を過ごされ、公生涯の働きを全うされる人生を過ごされました。今日の御言葉を通して、この地でのイエス様の生涯とその中での公生涯のお働きを学んでいきたいと思います。

**1.イエスキリストの幼年期と青年期**

イエス様はヨセフとマリアの息子としてベツレヘムでお生まれになりました。ベツレヘムはダビデの故郷ですが、イエス様がベツレヘムでお生まれになったのは、ヨセフがダビデの子孫としてその場所で人口調査を受けなくてはいけなかったからです。イエス様のご誕生の出来事は旧約の預言の成就でした(イザヤ7：14、マタイ1：18～25)。イエス様はお生まれになって後8日後に割礼を受けられ、40日が経って後聖殿にのぼり、神様に捧げられる献児儀式に参加なされました(ルカ2:22)。神様は乳児たちの大虐殺を命じたヘロデ王からイエスを守るために、ヨセフの家族をエジプトへと導かれました (マタイ2:13∼23)。幼子イエスは両親とともにエジプトに、ヘロデ王が死ぬまで留まりました。イエス様がエジプトへと逃れられた出来事は旧約の預言の成就でした(ホセア11:1)。イエス様はエジプトからユダの地へと戻って後、青年になるときまでガリラヤ地方のナザレという所で過ごされました。

イエス様は12歳の時、両親と共にエルサレム聖殿を訪問し、その場所で律法学者たちと論じられました(ルカ 2:41∼50)。イエス様はガリラヤのナザレで父ヨセフを助け大工の仕事をしながら、神様のお働きを全うする公生涯の時まで成長なされました。イエス様は、霊的、知的、身体的、社会的等、全ての面で完全に成長なされました(ルカ2:52)。

**2. イエスキリストの公生涯の働き**

1) 公生涯の働きのための準備

イエス様はヨセフとマリアの息子として生まれ、幼年期と青年期の時期を送られて後、公生涯の働きのための準備をなされました。イエス様は公生涯を始められる前に、ヨルダン川でバプテスマを受けられ、40日間断食をして後、試みを受けられました(マルコ1:9∼13)。

イエス様がバプテスマを受けられた事は、公生涯の働きが始まったことを意味します。イエス様が受けられたバプテスマは、後に受けられる十字架の死と復活を予告しています。イエス様がバプテスマを受けて上がってこられるとき、父なる神様はイエス様を‘わたしの愛する子’と宣言され、聖霊がイエス様に臨むことで、イエス様が神様の御子として、この世の救い主としてこの世に来られたことが確認されました(マタイ3:16∼17)。

またイエス様は公生涯を始められる前に、40日間断食をして後、聖霊の導きに従って荒野で悪魔の試みを受けられました (マタイ4:1∼11)。サタンの試みは、人間の根本的な欲求に対するものであり、公生涯の働きを前にされたイエス様に向かう一大挑戦でした。一番目の試みは、石をパンにしなさいというものであり、二番目の試みは聖殿の一番高いところから飛び降りなさいというものであり、最後三番目の試みは、サタンを崇めるならば、全てのものを手にすることが出来るというものでした。イエス様はこれらすべての試みに、神様の御言葉によって打ち勝たれました。神様は、イエス様がバプテスマを受けられる時、バプテスマのヨハネに、イエス様が ‘神の御子’であることをあらわされました(マタイ3:17)。バプテスマのヨハネが、この事実を目撃することによって、イエス様が神様の御子であることを確信し、人々にイエス様を‘見よ、世の罪を取り除く神の小羊’(ヨハネ 1:29)と証言しました。バプテスマのヨハネは、イエス様を自分の弟子たちに証言し、紹介し、イエス様は初めの弟子として、ヨハネとアンデレ、ペテロ、ピリピ、そしてナタナエルを呼ばれ、その後十二弟子を立てられました。

2) 公生涯の働き

イエス様は、悪魔の試みに勝利されて後、公生涯を始められました。イエス様の公生涯の期間の間のメッセージは ‘神の国’でした。バプテスマのヨハネは、悔い改めについてのメッセージだけを伝えましたが、イエス様は、悔い改めと共に、神の国が近づいたことを宣言されました。イエス様は苦難週間の働きを除いて、お働きの大部分をガリラヤ地方中心に行われました。イエス様の初期ガリラヤの働きとして、十二弟子を呼ばれ (ルカ 5:1∼11)、山上の垂訓の御言葉を伝えられ(マタイ5:1∼10)、様々な奇跡を行われた出来事などがあります (マルコ 1:29∼42)。その後、イエス様は初めの過ぎ越しの祭りに、エルサレムに行かれて聖殿をきよめられ(ヨハネ2:14∼22)、ニコデモに出会われ(ヨハネ3:1∼21)、福音伝道の働きをなされたことがヨハネの福音書に記されています(ヨハネ3:22∼36)。イエス様の、一番印象的な福音伝道の働きがこの部分に表れています。二番目のエルサレム訪問でも、イエス様は多くの奇跡を行われました (ヨハネ5:1∼9)。これがイエス様の初期のユダでのお働きです。

イエス様の後期のガリラヤでのお働きは、人々がイエス様に対して失望を感じ離れていく時間でした。それは、イエス様が伝えられたメッセージが、自分たちの期待と違ったからでした。この期間、イエス様は弟子たちを教えられる事に重点を置かれました。従って、この期間にはイエス様の教えについて多く記されており、イエス様ご自身のこれからの出来事への言及も多く語られています (マタイ17:22∼18:35)。

イエス様の、後期ユダヤでの働きは、ユダヤ人たちの祭りである仮庵の祭り(イスラエルの民を40年間荒野で導かれた事を記念する祭り)と、宮きよめの祭り(ユダを侵略し、エルサレム聖殿を侮辱した外勢から、聖殿を回復し、神様に奉献することになったのを記念する祭り)の間にあらわれます。イエス様の公生涯の後半部の働きはヨハネの福音書を中心に紹介されています。またイエス様は、ご自身を殺そうとする者たちから、ヨルダン川の東の方ベレヤ地域へと身を避けられることもありました。この場所での働きは、マルコの福音書を通して知ることが出来ますが、離婚についての御言葉、子どもたちについて容認の御言葉、裕福な若者に対する教え、ご自身の受難についての予告、真の弟子の道についての教訓が含まれています(マルコ10:1∼45)。

◎マナの要約

<イエスキリストの幼年期と青年期>

1. イエス様は聖書の約束通り、ユダのベツレヘムで人間の姿でお生まれになりました。

2. イエス様は知恵と身長が大きくなり、神様と人からますます愛されて成長しました。

3. イエス様は公生涯を始められる前まで大工の息子としてガリラヤのナザレで成長されました。

<イエスキリストの公生涯の働き>

1. イエス様は公生涯を始められる前にヨルダン川でバプテスマを受けられ、40日断食をされて後、聖霊の導きに従って、荒野でサタンの試みを受けられました。

2. イエス様の公生涯の働きは、ガリラヤとユダ、エルサレムを中心に行われました。

3. イエス様は悔い改めと共に、神の国が近づいたことを宣言されました。

4. イエス様は十二弟子を立てられ、福音を伝えられ、多くの奇跡を行われました。

◎ 日々の中のマナ

<隣の人と挨拶>

1. イエス様は私たちと共におられます

2. イエス様は私たちを愛しておられます

3. イエス様の姿に似ていきましょう

<祈り>

1. 私たちを愛して、この地に来られたイエス様に感謝して祈りましょう。

2. 全てにおいてイエス様に似ていく人生を生きるように祈りましょう。

3. 私たちの子供たちがイエス様のように全人的に成長するように祈りましょう。

<とりなしの祈り>隣の人と祈りの課題を分かち合い、共に祈りましょう。